

中佐呂間駅通

1893年（明治36年）12月15、中野判次郎を駅通取扱人として、任命して、佐呂間7線28号東180m道路沿いに建設した（現在の鈴木工場少し上手）にあったと記録にある。

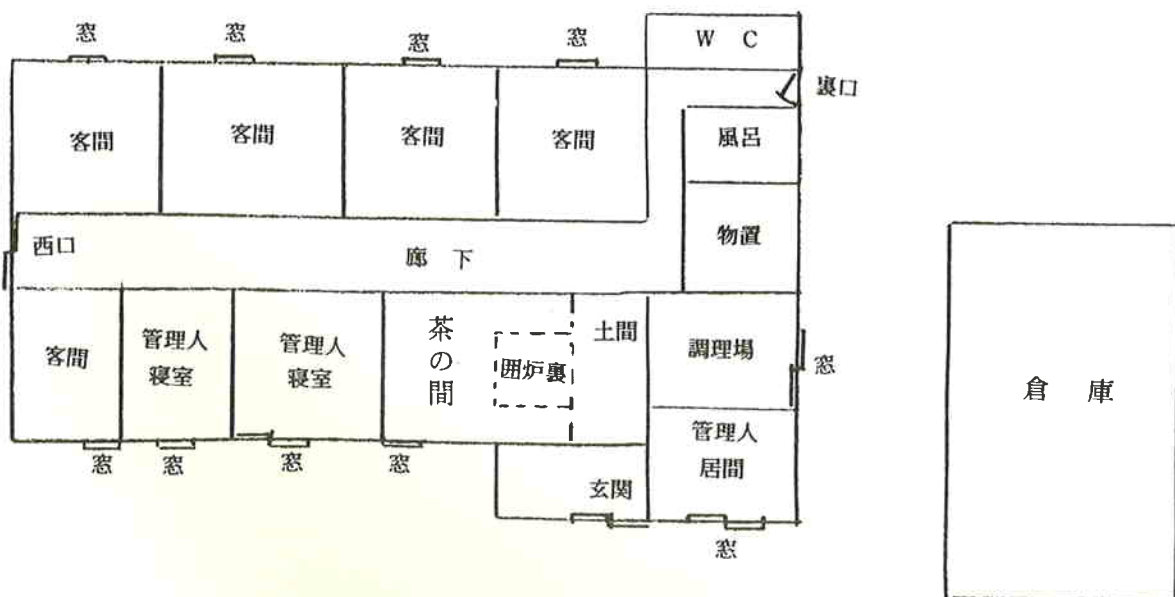
S41年発行の佐呂間町史、P869に描かれている中佐呂間駅通略図との比較を試みたら、全くの矛盾が見られたので、元議会議長を長く務められていて、現郷土研究会長の山内春芳と徳永とが町史P868、中佐呂間駅通所の写真を見ながら、玄関・各窓の配置と屋根の上の煙出しなどを見て下の略図を作成してみたのでした。

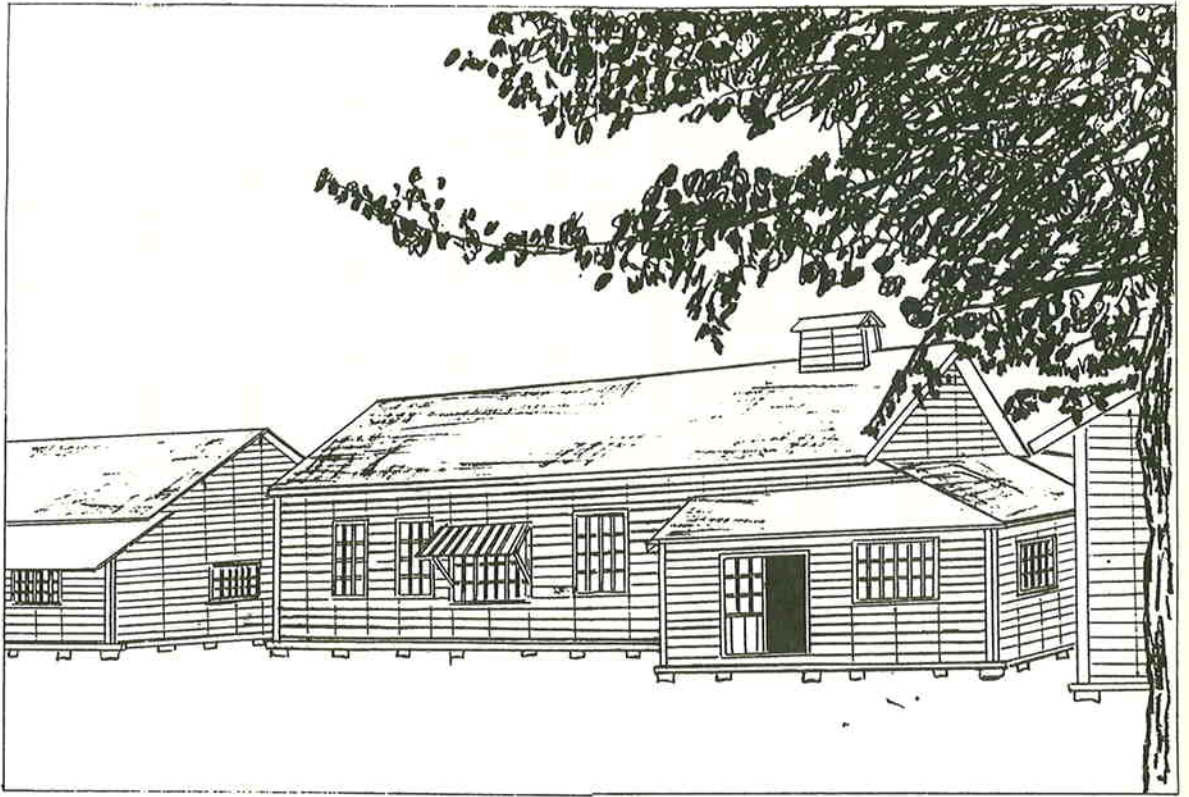
1930年（昭和五年）発行の「日本建築工作法」と言う本により、窓・玄関などの間隔の間数を計算して、向かって右側の大きい窓のあるところに、管理人居間でないのかなとしましたのは、玄関の側で旅の人と接触しやすい場所だと考えたわけです。そうして南の日当たりのよい場所という部屋でもありますので、考えに入れてのことでした。調理場は場所的に常識的に、

玄関・土間・囲炉裏・茶の間、廊下・客間のは常識的にこうなっていただろうとしまして、管理人寝室を南側に配置するのも、常識的ではないでしょうか、

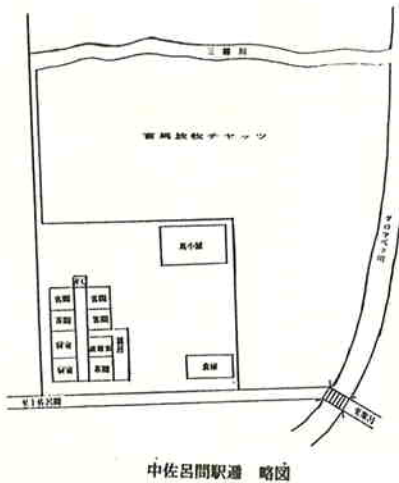
それから、倉庫・駅通宿舎・厩舎などの配置は写真を見ての判断でした。

中佐呂間駅通 略図

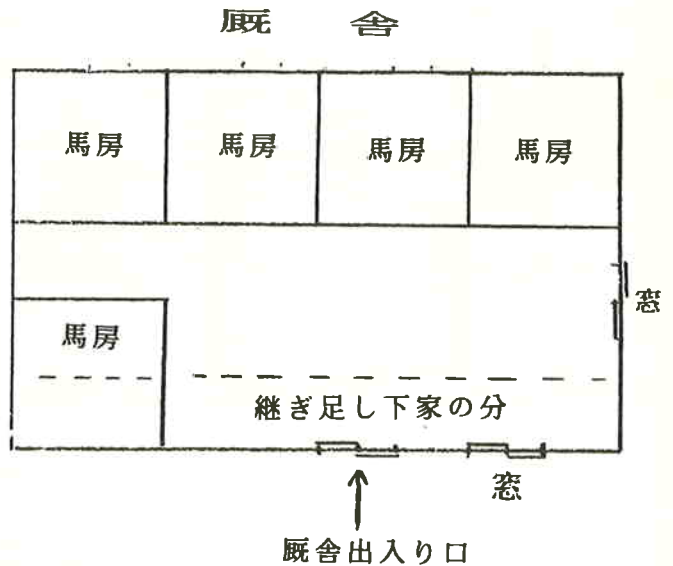




右下の厩舎・
 中佐呂間駅通宿
 舎・倉庫の図面
 については、H
 6年3月2日会
 長と作成して、
 H6年3月4日、
 米元治氏夫妻に
 見て頂きました。
 お二人はずつ
 と昔のことは、
 記憶が薄れてい
 ますので、写真
 と平面図を見た
 らこんなものだっ
 たかと思うだけ
 ですが、
 倉庫の側の大
 きな木は「私は
 よく覚えていま
 す」と、奥さん
 が言ってくれま
 した。



左の図面は昭和41年発行の佐呂間町史
 の869頁に掲載のものです。



下の図は

佐呂間町が、未だ錯沸村と言われていたときに建てられた最初の役場庁舎の全景であります。建築が完成したのが、昭和四一年五月三〇日発行の佐呂間町史に記載されているのを見れば、

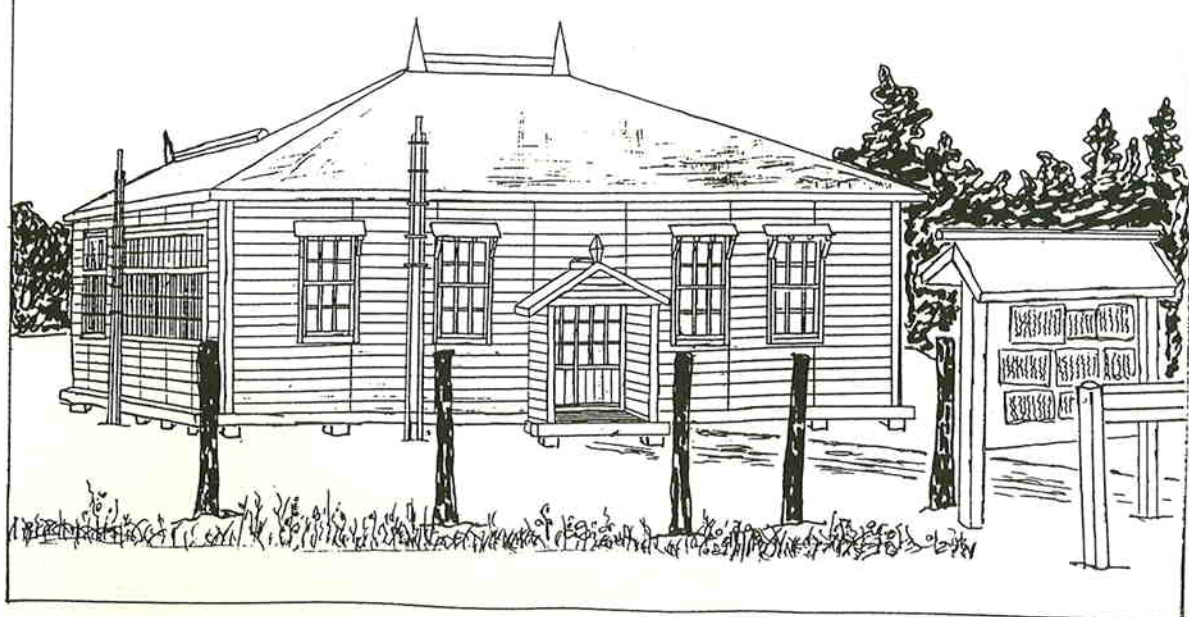
一〇一頁

大正三年も一一月に入ってようやく、村長住宅併用の木の香も新しい新庁舎が落成し、仮住まいから抜けて、正庁の面目を整えた。と記されている。

次頁の、平面図の郷土研究会長の、山内春芳の記憶の、村長室、職員主席室が廊下も含めて、村長住宅としたのではないだろうか、財政の都合で村長住宅別棟になるまで、

時代色の現れに、車時代の現代と違うのは、正面の黒い棒杭の五本は、馬を繋ぐ杭だったそうです。現代ならば駐車場の敷地でしょう。

最初の役場庁舎（大正3年建築）



鑑沸村と言われていた頃の

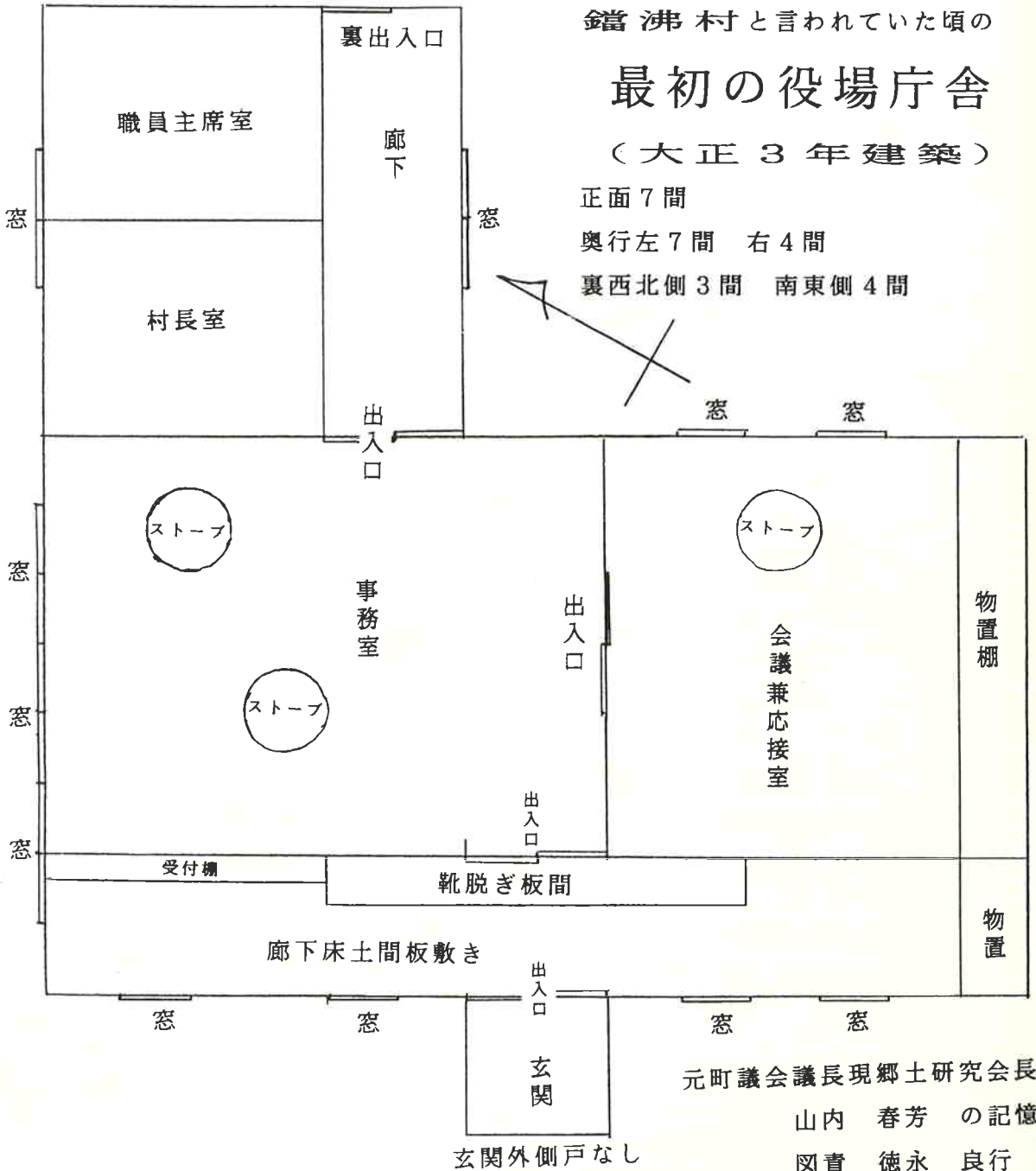
最初の役場庁舎

(大正3年建築)

正面7間

奥行左7間 右4間

裏西北側3間 南東側4間



元町議会議長現郷土研究会長

山内 春芳 の記憶

図責 徳永 良行

⇐至富士 —— 至直ぐ近く市街中心⇨